



JFE

JFEグループ インベスターズ・ミーティング

2019年11月12日
JFEホールディングス株式会社



1. JFEグループ2019年度上期決算
および 2019年度業績見通し
2. 配当について

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

JFEグループ
2019年度 上期決算



(億円)	2018年度 上期 [※]	2019年度 上期	増減
売上収益	18,923	18,712	▲211
事業利益	1,546	490	▲1,056
金融損益	▲62	▲63	▲1
セグメント利益	1,484	427	▲1,057
個別開示項目	—	—	—
税引前利益	1,484	427	▲1,057
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲396	▲108	288
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,088	319	▲769

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。



2019年度 上期決算 セグメント別

JFE

(億円)	2018年度 上期 ※	2019年度 上期	増減
鉄鋼事業	14,025	13,531	▲494
エンジニアリング事業	2,021	2,389	368
商社事業	5,706	5,575	▲131
調整額	▲2,829	▲2,783	46
売上収益	18,923	18,712	▲211
事業利益 (A)	1,546	490	▲1,056
金融損益 (B)	▲62	▲63	▲1
セグメント利益			
鉄鋼事業	1,173	177	▲996
エンジニアリング事業	77	119	42
商社事業	193	146	▲47
調整額	39	▲15	▲54
合計 (A+B)	1,484	427	▲1,057

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

JFEグループ
2019年度 連結業績見通し



(億円)	2019年度見通し (前回)		2019年度見通し (今回)		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	18,700	39,600	18,712	37,300	12	▲2,300
事業利益	550	1,400	490	600	▲60	▲800
金融損益	▲50	▲150	▲63	▲130	▲13	20
セグメント利益	500	1,250	427	470	▲73	▲780
個別開示項目	—	—	—	—	—	—
税引前利益	500	1,250	427	470	▲73	▲780
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲150	▲350	▲108	▲140	42	210
親会社の所有者に帰属する 当期利益	350	900	319	330	▲31	▲570



2019年度 業績見通し セグメント別

JFEホールディングス

対 前回

JFE

(億円)	2019年度見通し (前回)		2019年度見通し (今回)		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
鉄鋼事業	14,000	29,000	13,531	26,900	▲469	▲2,100
エンジニアリング事業	2,300	5,200	2,389	5,200	89	0
商社事業	5,530	12,000	5,575	11,200	45	▲800
調整額	▲3,130	▲6,600	▲2,783	▲6,000	347	600
売上収益	18,700	39,600	18,712	37,300	12	▲2,300
事業利益 (A)	550	1,400	490	600	▲60	▲800
金融損益 (B)	▲50	▲150	▲63	▲130	▲13	+20
セグメント利益						
鉄鋼事業	260	700	177	0	▲83	▲700
エンジニアリング事業	90	230	119	230	29	0
商社事業	150	360	146	320	▲4	▲40
調整額	0	▲40	▲15	▲80	▲15	▲40
合計(A+B)	500	1,250	427	470	▲73	▲780

8



(億円)	2018年度実績		2019年度見通し		増減	
	上期 ※	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	18,923	38,736	18,712	37,300	▲211	▲1,436
事業利益	1,546	2,320	490	600	▲1,056	▲1,720
金融損益	▲62	▲125	▲63	▲130	▲1	▲5
セグメント利益	1,484	2,195	427	470	▲1,057	▲1,725
個別開示項目	—	▲102	—	—	—	102
税引前利益	1,484	2,093	427	470	▲1,057	▲1,623
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲396	▲458	▲108	▲140	288	318
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,088	1,635	319	330	▲769	▲1,305

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。



2019年度 業績見通し セグメント別

JFEホールディングス

対前年度

JFE

(億円)	2018年度実績		2019年度見通し		増減	
	上期※	年間	上期	年間	上期	年間
鉄鋼事業	14,025	28,306	13,531	26,900	▲494	▲1,406
エンジニアリング事業	2,021	4,858	2,389	5,200	368	342
商社事業	5,706	11,258	5,575	11,200	▲131	▲58
調整額	▲2,829	▲5,686	▲2,783	▲6,000	46	▲314
売上収益	18,923	38,736	18,712	37,300	▲211	▲1,436
事業利益(A)	1,546	2,320	490	600	▲1,056	▲1,720
金融損益(B)	▲62	▲125	▲63	▲130	▲1	▲5
セグメント利益						
鉄鋼事業	1,173	1,613	177	0	▲996	▲1,613
エンジニアリング事業	77	201	119	230	42	29
商社事業	193	357	146	320	▲47	▲37
調整額	39	23	▲15	▲80	▲54	▲103
合計(A+B)	1,484	2,195	427	470	▲1,057	▲1,725

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

JFEスチール
2019年度 上期決算



生産・出荷状況

JFE

	単位	2018年度							2019年度			前回 見通し 上期
		4-6月	7-9月	上期	下期		年間	4-6月	7-9月	上期		
					10-12月	1-3月						
単独粗鋼生産量	万 t	710	694	1,404	639	588	1,227	2,631	700	679	1,379	1,400 程度
連結粗鋼生産量	万 t	751	733	1,484	679	625	1,304	2,788	736	713	1,450	1,470 程度
単独鋼材出荷量	万 t	613	593	1,206	624	548	1,172	2,378	585	594	1,180	1,220 程度
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.4	44.2	43.3	43.5	36.0	40.1	41.7	39.9	42.1	41.0	41 程度
鋼材平均価格	千円 /t	79.3	81.9	80.6	82.9	82.0	82.5	81.5	80.4	79.4	79.9	80 程度
為替レート	円 /ドル	108.1	110.9	109.5	113.4	110.3	111.9	110.7	110.7	107.6	109.2	109 程度
期末為替レート	円 /ドル	110.5	113.6	113.6	111.0	111.0	111.0	111.0	107.8	107.9	107.9	

JFEスチール	19年度上期 見通し	19年度上期 実績	(億円) 増減 見通し→実績
セグメント利益	260	177	▲83

- コスト ▲ 50
- 数量・構成 ▲ 90
- 販価・原料 + 40
- 棚卸資産評価差等 + 30
- その他 ▲ 13



棚卸資産評価差	+40 (▲100→▲60)
原料キャリーオーバー影響	▲10 (+60→+50)
為替換算差	± 0 (▲30→▲30)

合計 ▲ 83

19年度上期のセグメント利益は8月9日公表の見通しに対し▲83億円の177億円となった。内訳は、

◆コスト：▲50億円

台風影響や小トラブルにより補修費が増加したことによる。

◆数量・構成：▲90億円

鋼材需要の減少や海外市況の下落等に伴う生産調整により粗鋼・出荷ともにマイナス。

・粗鋼生産 ▲21万t (1,400⇒1,379万t)

・出荷量 ▲40万t (1,220⇒1,180万t)

◆販価・原料 (スプレッド)：+40億円 (≒鋼材トンあたり：+300円)

原料炭価格が想定よりも下落したことによりスプレッドが改善した。

◆棚卸資産評価差等：+30億円

◆その他：▲13億円



JFE

2018年度上期⇒2019 年度上期
セグメント利益 ▲996億円内訳

JFEスチール

JFEスチール	18年度上期 実績 ※	19年度上期 実績	(億円) 増減 18上→19上
セグメント利益	1,173	177	▲996

- コスト + 130
- 数量・構成 ▲ 70
- 販価・原料 ▲ 510
- 棚卸資産評価差等 ▲ 200
- その他 ▲ 346

棚卸資産評価差	▲260 (+200→▲60)
原料キャリーオーバー影響	+140 (▲90→+50)
為替換算差	▲ 80 (+50→▲30)

合計 ▲ 996

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

14

19年度上期実績セグメント利益は、前年同期比で▲996億円の177億円となった。内訳は、

◆コスト：+130億円

◆数量・構成：▲70億円

鋼材需要の減少や海外市況の下落等に伴う生産調整により粗鋼・出荷ともにマイナス。

・粗鋼生産▲26万t（1,404万t⇒1,379万t）

・出荷量▲26万t（1,206万t⇒1,180万t）

◆販価・原料（スプレッド）：▲510億円（≒鋼材トン当たり：▲4,300円）

主原料価格の上昇（主として鉄鉱石）と海外市況の低迷によりスプレッドが縮小。

◆棚卸資産評価差等：▲200億円

◆その他：▲346億円

・基盤整備推進に伴う償却費・廃却損の増加

・資材・物流・外注費単価上昇

・グループ会社収益の減少 等

JFEスチール
2019年度 業績見通し



鋼材需給

- 国内： ➤ 建機・産機および建築分野で需要が一層の低下
 - 需要減や輸入材の影響等から在庫は高水準が継続
- 海外： ➤ 米中貿易摩擦の激化等を背景に世界各地で需要が減少
 - 中国の鋼材輸出は依然低位も、粗鋼生産は高水準が継続し警戒が必要

鋼材市況

- 鋼材需要の減少、およびインド・ロシアミルの輸出攻勢により価格競争が激化し、海外鋼材市況は一段と下落



鋼材需要の減少、海外市況の下落に伴う生産調整を実施



足下の事業環境認識（国内）

JFE

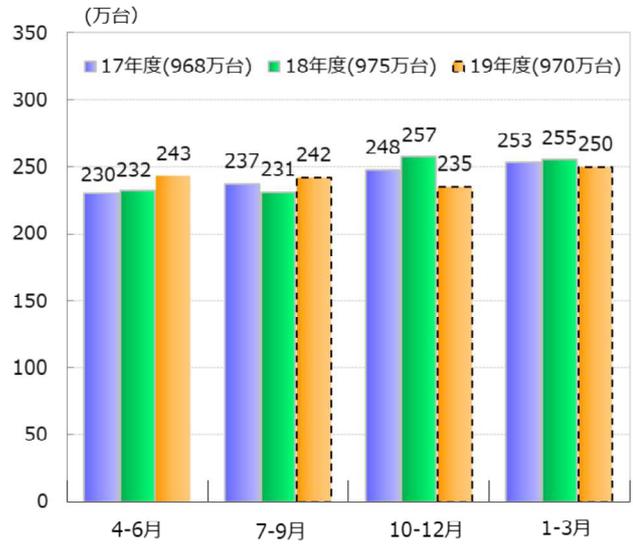
- 19年8月の普通鋼鋼材受注は前年度比▲10.6%と大幅に落ち込んだ。
- 造船、建機・産機および建築分野でも需要が一層弱くなってきている。

【普通鋼鋼材受注推移】

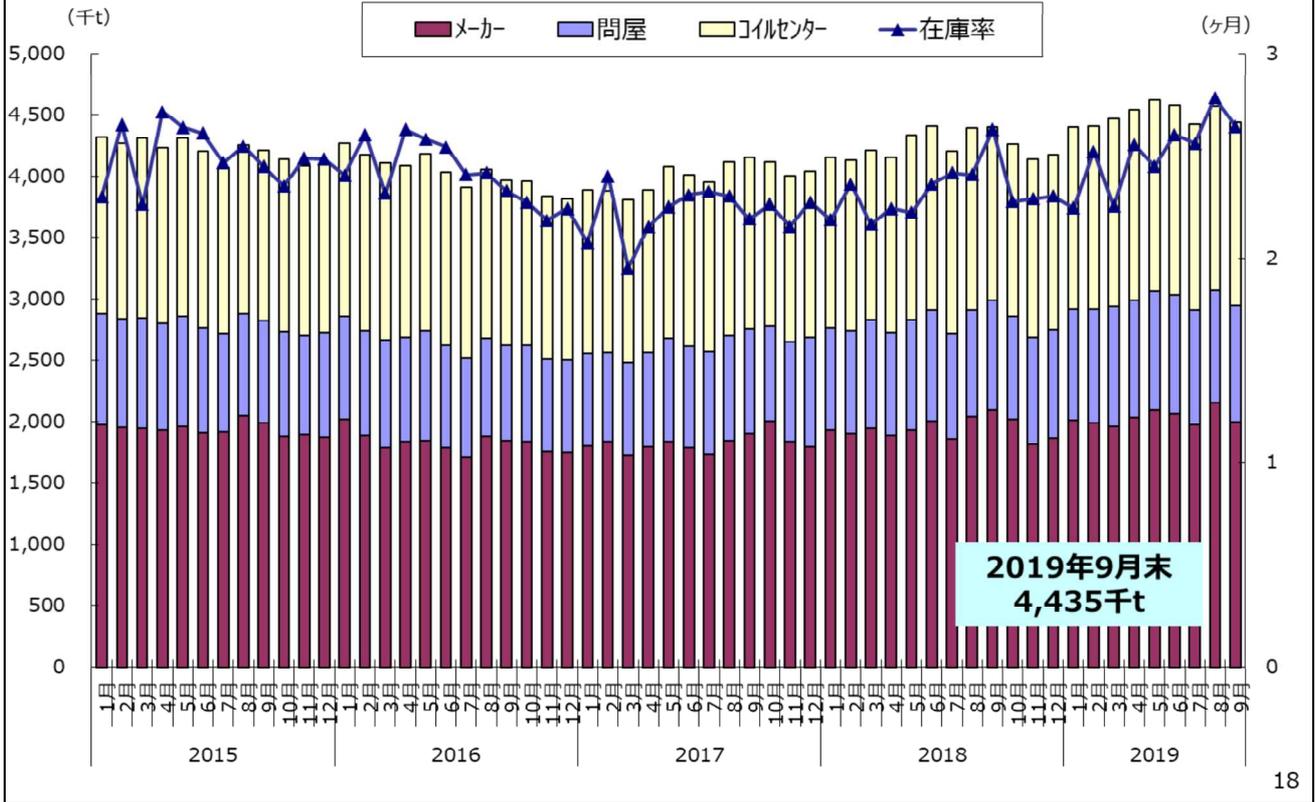


出典：日本鉄鋼連盟

【自動車生産台数見通し】



JFE予想 17



9月末の薄板 3 品在庫は443.5万 t（前月比-13.2万 t、前年同月比+3.9万 t）。

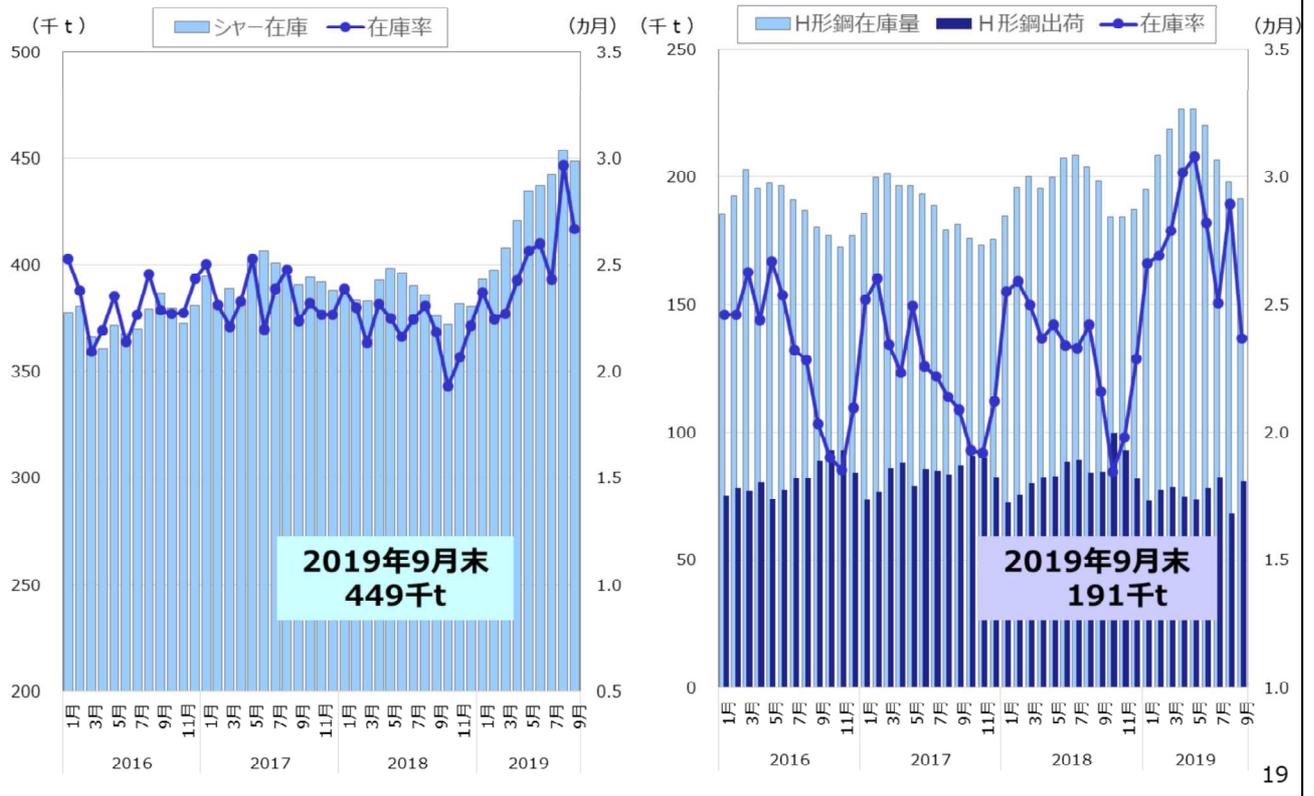
輸入材が引き続き一定量入ってきていることもあり、依然在庫レベルは高い状態が継続している。

国内鉄鋼需要は分野により需要に弱さが出てきているため、需給状況の変化に注意を払っている。

引き続き需要に見合った生産に努める。



JFE



【厚板シャー】（出典：厚板シャーリング工業組合）

9月末の厚板シャー在庫は44.9万t（前月比-0.5万 t、前年同月比+7.3 万 t）。
需要環境が全般的に低調な中で在庫は増加基調にあったが、対前月では微減となった。

【H形鋼】（出典：ときわ会）

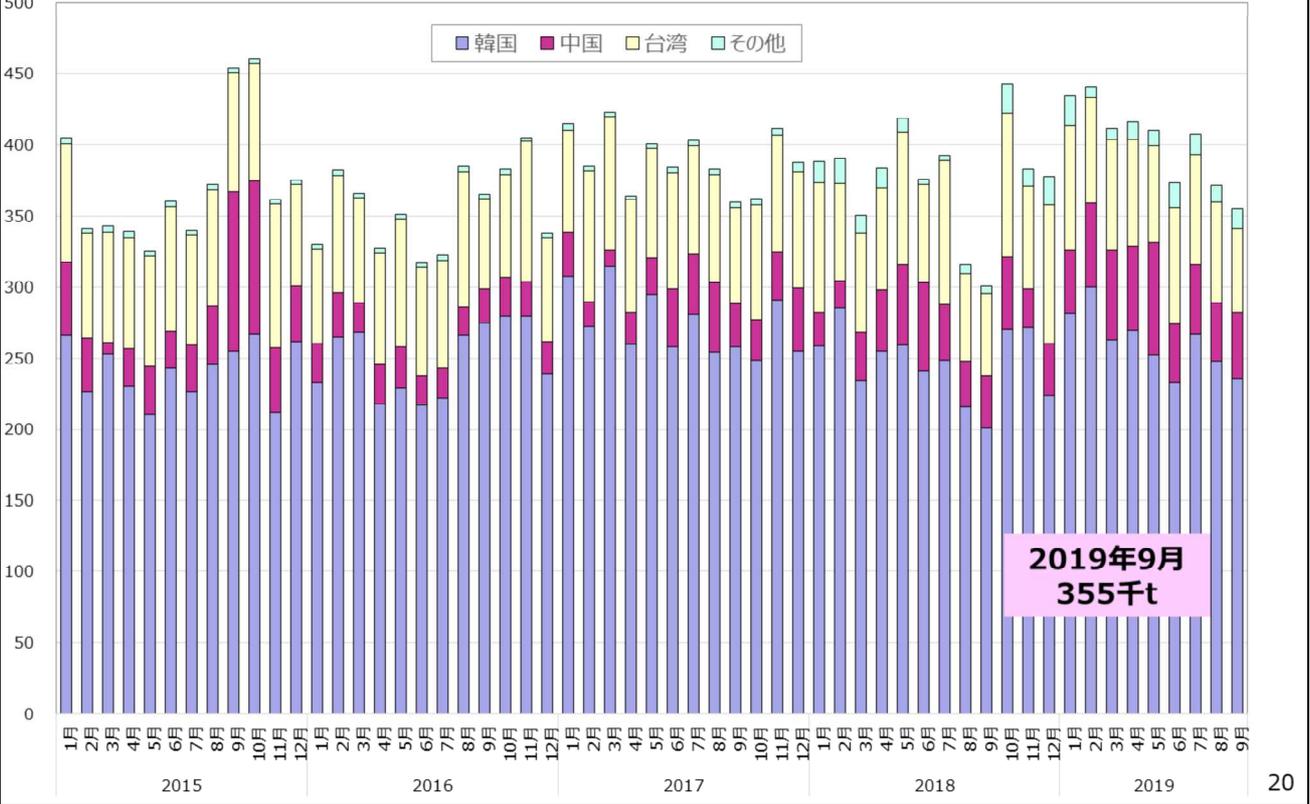
9月末のH形鋼在庫は19.1万t（前月比-0.7万 t、前年同月比-0.7万 t）。

9月は季節要因による出荷回復や需要見合いの入庫継続等により、4か月連続の在庫量減。在庫率も2か月台前半に低下。



JFE

(千t)
500



9月の普通鋼鋼材輸入量は35.5万 t（前月比-1.7万 t。前年同月比+5.5万 t）。

引き続き一定量が入ってきている状況。アジア市況が低迷していることから、日本へ一部鋼材（中国・韓国）が流入していると想定している。

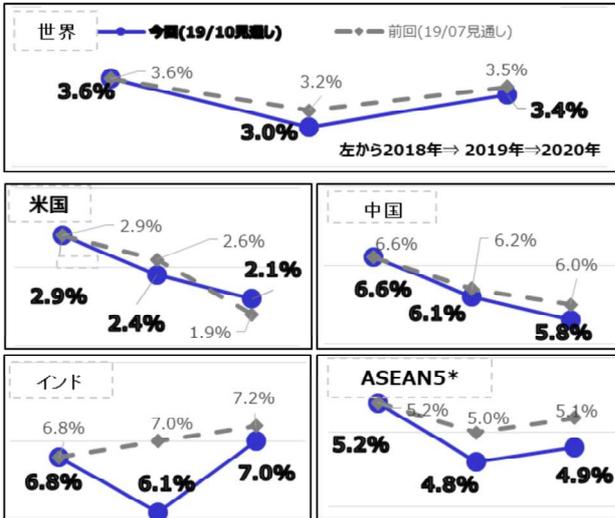


足下の事業環境認識（海外）

JFE

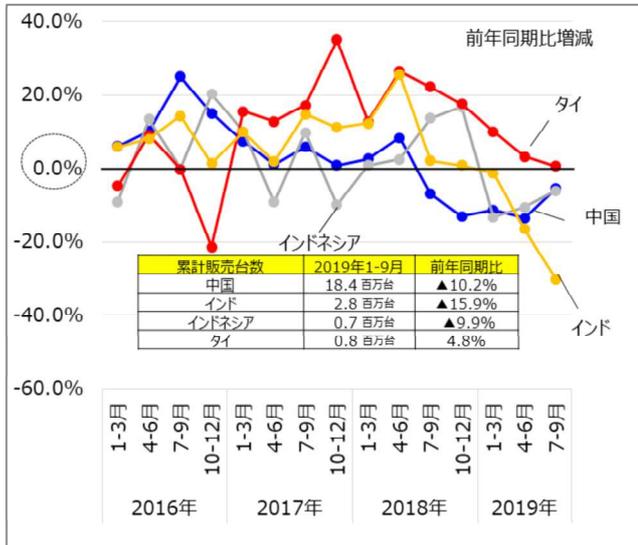
- 実質GDP成長率見通しは前回予測を下回り、世界経済の減速感が強まっている。
- 貿易摩擦の強まりが世界経済全体に波及し、景況感を急速に悪化させている。
- アジアの自動車販売台数をみても、各国で急激な減速傾向を示している。

【18～20年暦年実質GDP成長率見通し】



出典：IMF World Economic Outlook Update 19/7/23公表・19/10/15公表
 *ASEAN5：タイ・ラオス・インドネシア・フィリピン・インドネシア

【自動車販売台数推移】





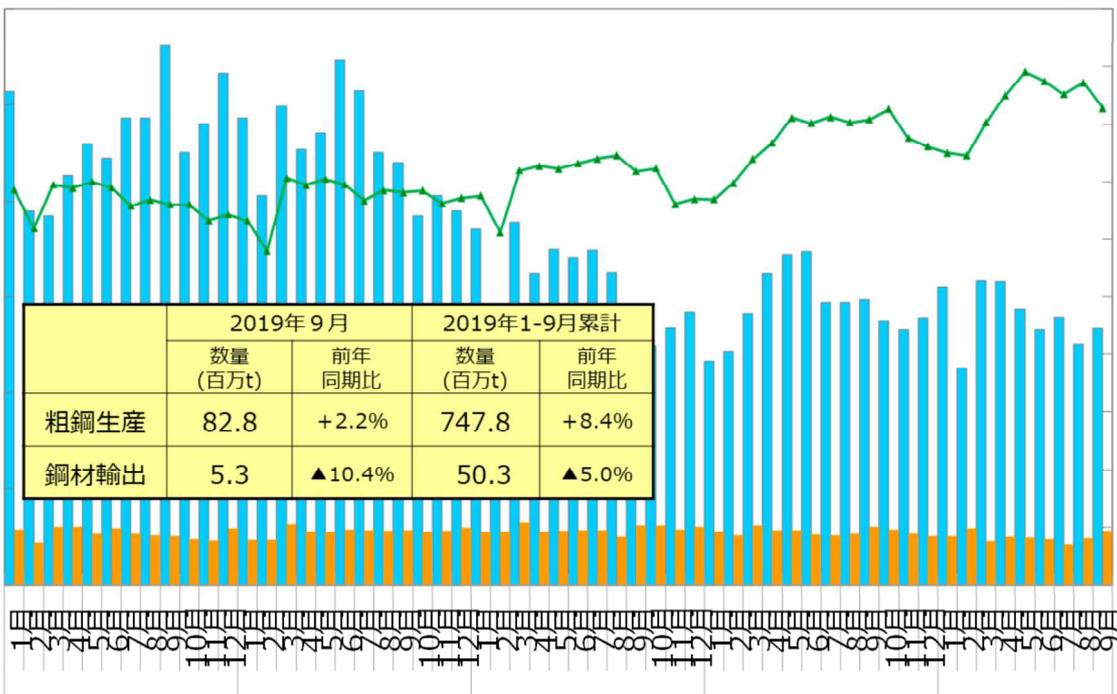
JFE

(百万t)

12
10
8
6
4
2
0

■ 輸出(左軸) ■ 輸入(左軸) ● 粗鋼生産 (右軸)

(百万t)
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0

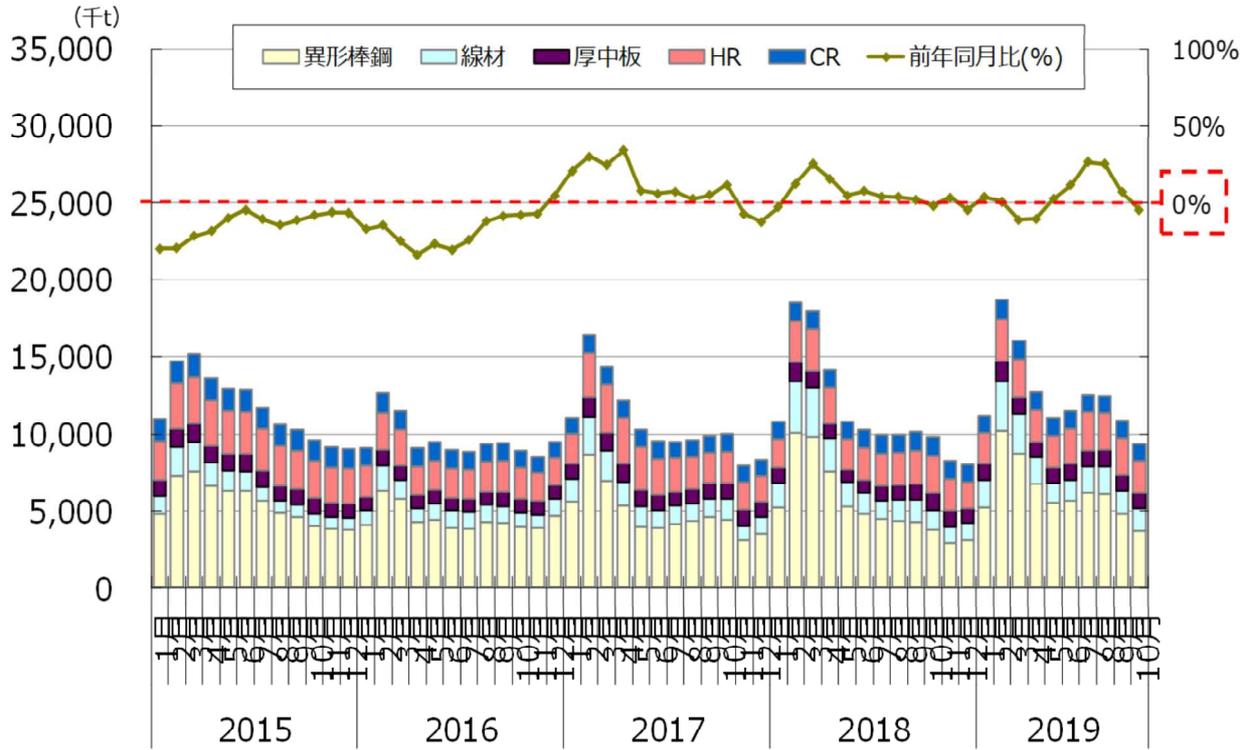


1,2月粗鋼生産量はWSA推定

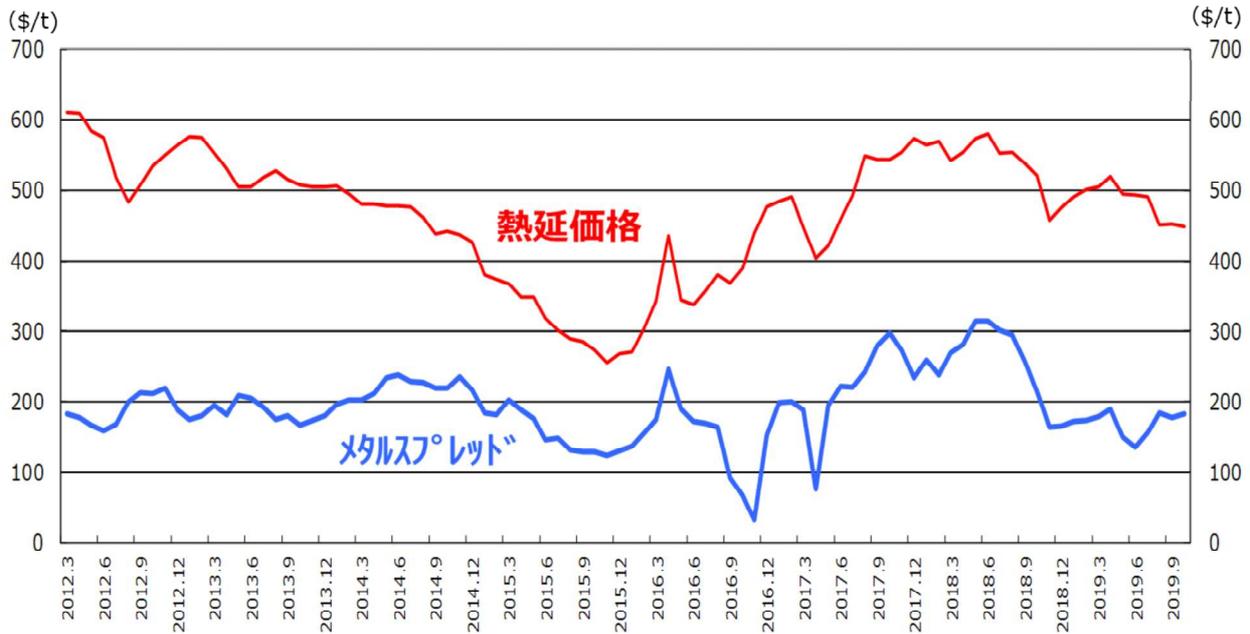
22

19年9月の中国粗鋼生産は、前年同月比2.2%増の82.8百万t（前月比-1.6百万t、前年同月比+7.3百万t）。日当たり粗鋼生産量は、2.8百万tで前月比微減も、依然高水準を維持。

19年9月の中国鋼材輸出は、5.3百万t（前月比+0.3百万t、前年同月比-0.6百万t）。鋼材輸出は依然として低位だが、生産は高水準が続いており、比較的元安の水準にあることや、主原料価格および中国国内市況が軟化している状況を踏まえ、輸出の増加には引き続き注意を払っていく。



19年10月末の中国国内市中外在庫は、約940万t（前月比-13.4%、前年同月比-4.3%）
 季節パターン通り春節をピークに減少した後、高止まりが継続したが、足下は再び減少基調。
 鋼材輸出は依然低位であり、現時点では底堅い内需を背景に需給はバランスを保っている。



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

中国国内の熱延価格と国際スポットベースの鉄鉱石・原料炭価格から計算されるメタルスプレッドは、熱延価格の軟化と鉄鉱石価格の高騰により、6-7月は\$150/tを切る水準まで下落した。その後、主原料価格の下落により、足元は\$180/tまで回復するも、市況反転の兆しはみられず、その後、同水準で推移。

今後需要期、環境規制シーズンに入っていく中でどこまで回復するか注視していく。



原料

主原料市況

JFE

鉄鉱石 (豪州粉鉱)



原料炭 (豪州強粘炭)



原料炭の17年4-6月期以降ターム契約FOBは、インデックス平均を記載
 (4-6月期：3-5月平均、7-9月期：6-8月平均、
 10-12月期：9-11月平均、1-3月期：12-2月平均)



JFEスチール 2019年度業績見通し

JFE

	単位	2018年度 年間 実績	2019年度			2019年度 年間 前回 見通し
			上期 実績	下期 見通し	年間 見通し	
売上収益	億円	28,306	13,531	13,369	26,900	29,000
セグメント利益	億円	1,613	177	▲177	0	700

単独粗鋼生産量	万 t	2,631	1,379	1,320程度	2,700程度	2,800程度
連結粗鋼生産量	万 t	2,788	1,450	/		/
単独鋼材出荷量	万 t	2,378	1,180			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	41.7	41.0			
鋼材平均価格	千円/t	81.5	79.9			
為替レート	円/ドル	110.7	109.2	105程度	107程度	



2019年度 セグメント利益 前回⇒今回 ▲700億円内訳

JFE

(億円)			
JFEスチール	2019年度 前回	2019年度 今回	増減 対前回
セグメント利益	700	0	▲700

- コスト ▲ 100
- 数量・構成 ▲ 300
- 販価・原料 ▲ 30
- 棚卸資産評価差等 ▲ 300
- その他 + 30

棚卸資産評価差	▲160 (+20→▲140)
原料キャリアオーバー影響	▲110 (+60→▲50)
為替換算差	▲30 (▲30→▲60)

合計 ▲ 700

27

19年度の年間セグメント利益は8月9日公表の見通しに対して、▲700億円の0億円の見通し。内訳は、

◆コスト：▲100億円

台風影響や小トラブルにより補修費が増加したことによる。

◆数量・構成：▲300億円

・国内外の鋼材需要の減少および海外市況の軟化により、数量減と品種構成悪化を見込む。

粗鋼生産減▲100万t (2,800⇒2,700万t)

◆販価・原料（スプレッド）：▲30億円（≒鋼材トン当たり：▲100円）

主として海外鋼材市況の下落によるスプレッド縮小を見込む。

◆棚卸資産評価差等：▲300億円◆その他：+30億円



2019年度 セグメント利益 対前年度 ▲1,613億円内訳

JFE

(億円)			
JFEスチール	2018年度 実績	2019年度 見通し	増減 対前年度
セグメント利益	1,613	0	▲1,613

■ コスト	+ 500	⇒	コスト削減+280、18年度一過性影響なし+220						
■ 数量・構成	± 0								
■ 販価・原料	▲ 960								
■ 棚卸資産評価差等	▲ 620	⇒	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>棚卸資産評価差</td> <td>▲490 (+350→▲140)</td> </tr> <tr> <td>原料キャリアオーバー影響</td> <td>▲40 (▲10→▲50)</td> </tr> <tr> <td>為替換算差</td> <td>▲90 (+30→▲60)</td> </tr> </tbody> </table>	棚卸資産評価差	▲490 (+350→▲140)	原料キャリアオーバー影響	▲40 (▲10→▲50)	為替換算差	▲90 (+30→▲60)
棚卸資産評価差	▲490 (+350→▲140)								
原料キャリアオーバー影響	▲40 (▲10→▲50)								
為替換算差	▲90 (+30→▲60)								
■ 資材単価等	▲ 150	⇒	資材、物流、外注単価上昇等						
■ その他	▲ 383	⇒	基盤整備推進に伴う償却費増、Gr会社等						
合計	▲ 1,613								

28

19年度のセグメント利益は、前年度実績比で▲1、613億円の0億円の見通し。内訳は、

◆コスト：+500億円

西日本製鉄所の上工程をはじめとした投資効果の発現等により+280億円のコスト削減を見込む。昨年度の操業トラブルによる一過性のコストアップ▲220億円の解消と合わせて、年間+500億円のコスト削減を見込む。

◆数量・構成：±0億円

粗鋼生産は昨年度の操業トラブル影響の戻りにより増加するも、品種構成悪化を見込む。

・粗鋼生産+69万t (2,631→2,700万t)

◆販価・原料 (スプレッド)：▲960億円 (≒鋼材トン当たり：▲4,100円)

米中貿易摩擦の激化を背景に、海外を中心とした鋼材市況の下落によるスプレッドの悪化を見込む。

◆棚卸資産評価差等：▲620億円◆資材単価差：▲150億円 (・資材費▲50億円 ・物流費▲40億円 ・外注費▲50億円)◆その他：▲383億円

・グループ会社収益の減少

・基盤整備推進に伴う償却費増

・資産廃却損の増加 等



2019年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲354億円内訳

JFE

JFEスチール	2019年度 見通し			(億円)
	上期	下期	年間	増減 2019上→下
セグメント利益	177	▲177	0	▲354

■ コスト + 140

■ 数量・構成 ▲ 100

■ 販価・原料 ▲ 140

■ 棚卸資産評価差等 ▲ 170 ⇨

■ その他 ▲ 84 ⇨

棚卸資産評価差	▲ 20 (▲60→▲80)
原料キャリーオーバー影響	▲ 150 (+50→▲100)
為替換算差	± 0 (▲30→▲30)

基盤整備推進に伴う償却費増 等

合計 ▲ 354

29

19年度下期は、上期比で▲354億円の▲177億円の見通し。内訳は、

◆コスト：+140億円

西日本製鉄所の上工程をはじめとした投資効果の発現等により+140億円のコスト削減を見込む。

◆数量・構成：▲100億円

国内外の需要の減少に伴う生産調整により粗鋼生産は減少を見込む。

・粗鋼生産▲57万t（1,379⇒1,321万t）

◆販価・原料（スプレッド）：▲140億円（≒鋼材トン当たり：▲1,200円）

米中貿易摩擦の激化を背景に、海外を中心とした鋼材市況の下落によるスプレッドの悪化を見込む。

◆棚卸資産評価差等：▲170億円

◆その他：▲84億円

・基盤整備推進に伴う償却費増 等

JFEエンジニアリング 2019年度 業績見通し



(億円)

	19年度見通し (前回)		19年度見通し (今回)		増減 (対前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	1,800	4,500	1,895	4,500	+95	0
売上収益	2,300	5,200	2,389	5,200	+89	0
セグメント利益	90	230	119	230	+29	0

【主な増減要因】

(上期) ・受注高 +95 契約時期差により増加
 ・売上収益 +89 工事進捗増により増加
 ・セグメント利益 +29 売上収益増・コスト発生時期差により増加

(年間) 前回見通し通り



(億円)

	18年度実績		19年度見通し		増減 (対前年度)	
	上期※	年間	上期	年間	上期	年間
受注高	2,718	4,828	1,895	4,500	▲823	▲328
売上収益	2,021	4,858	2,389	5,200	+368	+342
セグメント利益	77	201	119	230	+42	+29

【主な増減要因】

(年間) 受注高	▲328	環境分野、エネルギー分野の大型案件の出件タイミング差
売上収益	+342	※上期は、前年度に大型案件が集中した影響 前年度受注高拡大により増加
セグメント利益	+29	売上収益増により増加

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。



(億円)

分野	2018年度 実績	2019年度 見通し	増減	2019年度上期 主な受注内容 ★…第2四半期 新規・追加受注案件
環境	2,126	2,000	▲126	浄水場更新工事 廃棄物処理施設 基幹改良工事[静岡★] 廃棄物発電プラント 新設 (海外) [イギリス★]
エネルギー	1,328	1,100	▲228	地熱発電所設備更新工事 ガス幹線パイプライン
社会 インフラ他	1,374	1,400	+26	橋梁改築工事 (首都高速)
合計	4,828	4,500	▲328	

JFE商事
2019年度 業績見通し

(億円)

	19年度見通し (前回)		19年度見通し (今回)		増減 (対前回)	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	5,530	12,000	5,575	11,200	+45	▲800
セグメント利益	150	360	146	320	▲4	▲40

【主な増減要因】

(上期) ほぼ見通し通り

(年間) 米中貿易摩擦の長期化の影響等による米国での販売数量減・スプレッド縮小、および米国以外の地域での景気悪化の影響により、前回見通しに対し減収減益



(億円)

	18年度実績		19年度見通し		増減 (対前年度)	
	上期 ※	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	5,706	11,258	5,575	11,200	▲131	▲58
セグメント利益	193	357	146	320	▲47	▲37

【主な増減要因】

(上期) 主に米国での販売数量減・販価下落により減収減益

※前年度は米国通商政策の影響により一過的に需要増・価格高騰

(年間) 米中貿易摩擦の長期化の影響等により、米国はじめ海外を中心に販売数量減やスプレッド縮小を見込み減収減益の見通し

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

JFEホールディングス
2019年度 業績見通し



2019年度 業績見通し

JFEホールディングス

対前年度

JFE

(億円)	2018年度実績		2019年度見通し		増減	
	上期 ※	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	18,923	38,736	18,712	37,300	▲211	▲1,436
事業利益	1,546	2,320	490	600	▲1,056	▲1,720
金融損益	▲62	▲125	▲63	▲130	▲1	▲5
セグメント利益	1,484	2,195	427	470	▲1,057	▲1,725
個別開示項目	–	▲102	–	–	–	102
税引前利益	1,484	2,093	427	470	▲1,057	▲1,623
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲396	▲458	▲108	▲140	288	318
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,088	1,635	319	330	▲769	▲1,305

前回 (8/9) 事業利益 (年間) 見通し 1,400億円

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度上期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。



財務健全性の維持に向けた取り組み

JFE

収益環境が悪化する中、財務健全性維持向け以下の取り組みを実施

1. 資産圧縮によるキャッシュフロー創出 1,500億円程度

- ・ 棚卸資産の圧縮
- ・ 政策保有株式の売却（1,000億円以上）

6次中期計画期間中
（～20年度）

2. 鉄鋼事業の設備投資圧縮

- ・ 6次中期の国内設備投資1兆円（意思決定ベース）に対し、
1,000億円程度（10%程度）を圧縮



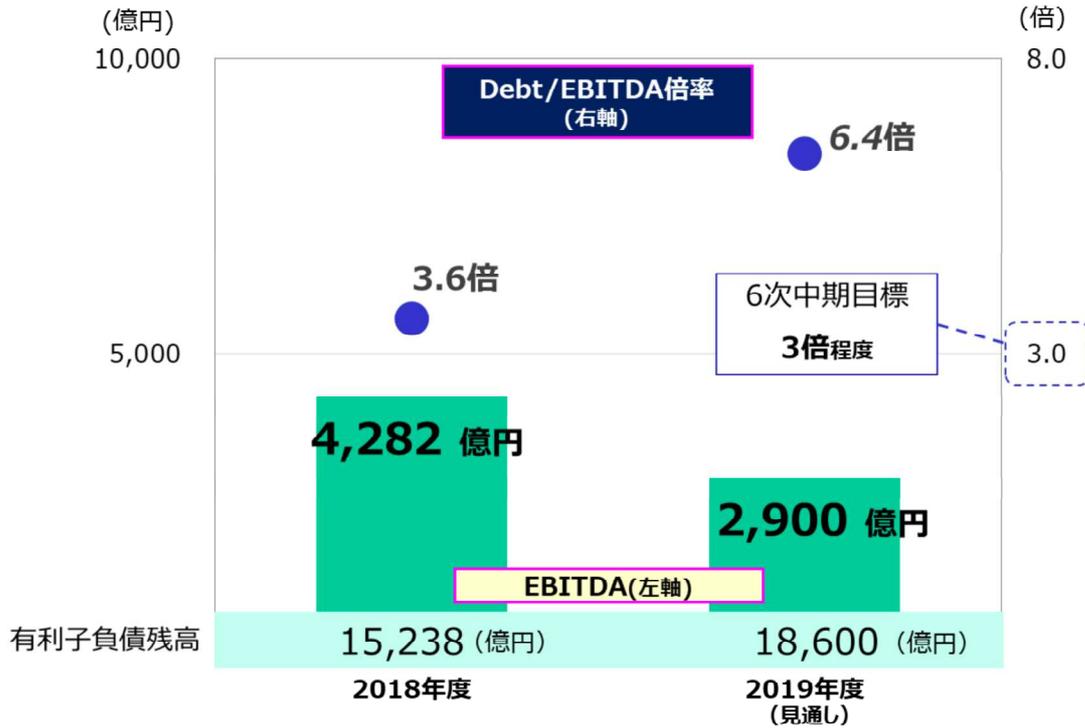
上記取り組みを反映し19年度末有利子負債残高は

1兆8,600億円程度を見込む



Debt/EBITDA倍率の推移

JFE



※19年度よりIFRS第16号「リース」を適用したことによる影響1,057億円(期首増加額)を含む

■ EBITDA = 事業利益 + 減価償却費及び償却費

■ Debt/EBITDA倍率 = 有利子負債残高/EBITDA

配当について



- 当期の中間配当については、1株当たり20円を支払うことを取締役会において決議いたしました。
- 期末の配当については、今後、業績動向を見極めつつ検討することとしており、未定としております。

トピックス



① 倉敷第4高炉改修概要

1. 金額 約500億円
2. 工期 2021年9月～2021年12月（予定）
3. 改修後炉容積：5,100m³（現在：5,005m³）

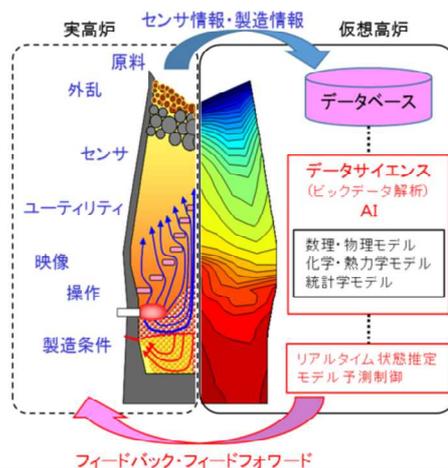


② 全高炉へのデータサイエンス技術の導入

- サイバーフィジカルシステム化を目的としたデータサイエンス技術の展開
- 異常の予兆の検知
- 炉内の熱状態の予測
- 最適な操業アクションをガイダンス



革新的な生産性向上と安定操業を目指す





JFEグループの中長期的成長に向けた取り組み

JFE

● JFEスチール ● JFEエンジニアリング ● JFE商事

**スタンダードケッセル・バウムガルテ社
ベルギー・スコットランドで大型案件を連続受注**

➤ 豊富な実績と高い技術力で受注を拡大し、海外事業の収益化を着実に推進

**カナダの電磁鋼板加工会社（Cogent社）の
全株式取得へ**

➤ 買収により変圧器用コア加工・流通機能は世界トップレベルに拡大。グローバルに技術・事業ノウハウを共有・統合し競争力を強化



**JFEケミカル 中国で電池材料（負極材）
製造・販売事業の合併会社設立を決定**

➤ 急成長する中国EV市場において拡大が期待される電池材料需要を捕捉

**世界初水質判定AI「DeepLiquid」を開発した
AnyTech社の全株式を取得**

➤ スタートアップ企業とのコラボレーションにより水質判定AIを活用した新たな事業領域を創出

ESG課題への取り組み



TCFDの提言に沿った情報開示 ～シナリオ分析～

JFE

JFEホールディングスは19年5月にTCFD最終報告書の趣旨に対する賛同を表明。
TCFDの提言に沿って、**気候関連の将来シナリオ分析を実施し、評価結果を開示**

2℃シナリオ	4℃シナリオ
<ul style="list-style-type: none"> ➢ 大胆な政策と技術革新により気温上昇を2℃未満に抑制 ➢ 脱炭素社会への移行に伴う社会変化が事業に影響 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 各国政策が実施されるも気温が4℃上昇 ➢ 温度上昇等の気候変化が事業に影響

**JFEグループの事業戦略が
気候変動に関するリスク管理と機会獲得に適応していることを確認**

内容の詳細は最新のJFEグループレポート（統合報告書）及び CSR報告書でご覧頂けます

<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html>

參考資料



主な財務関連データ

JFE 【日本基準】

年度	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
【主要財務指標】(億円、%、倍)							
経常利益	522	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	2,606	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,963	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	6.1倍	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
【1株当たり情報】(円/株、%)							
親会社株主に帰属する当期純利益	71.2	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	20	40	60	30	30	80	95
配当性向	28.1%	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

【日本基準】

- ※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費
- ※2 ROS: 経常利益/売上高
- ※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本
- ※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産
- ※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA
- ※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本
但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

見直し

年度	'18	'19
【主要財務指標】(億円、%、倍)		
事業利益	2,320	600
EBITDA ※1	4,282	2,900
ROS ※2	6.0%	1.6%
ROE ※3	8.6%	1.7%
ROA ※4	5.0%	1.2%
有利子負債残高(期末)	15,238	18,600
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.4倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	85.3%
【1株当たり情報】(円/株、%)		
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	57.3
配当金	95	(※) 20
配当性向	33.5%	

【IFRS】

- ※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費
- ※2 ROS: 事業利益/売上収益
- ※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分
- ※4 ROA: 事業利益/資産合計
- ※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA
- ※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分
但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

(※)中間配当

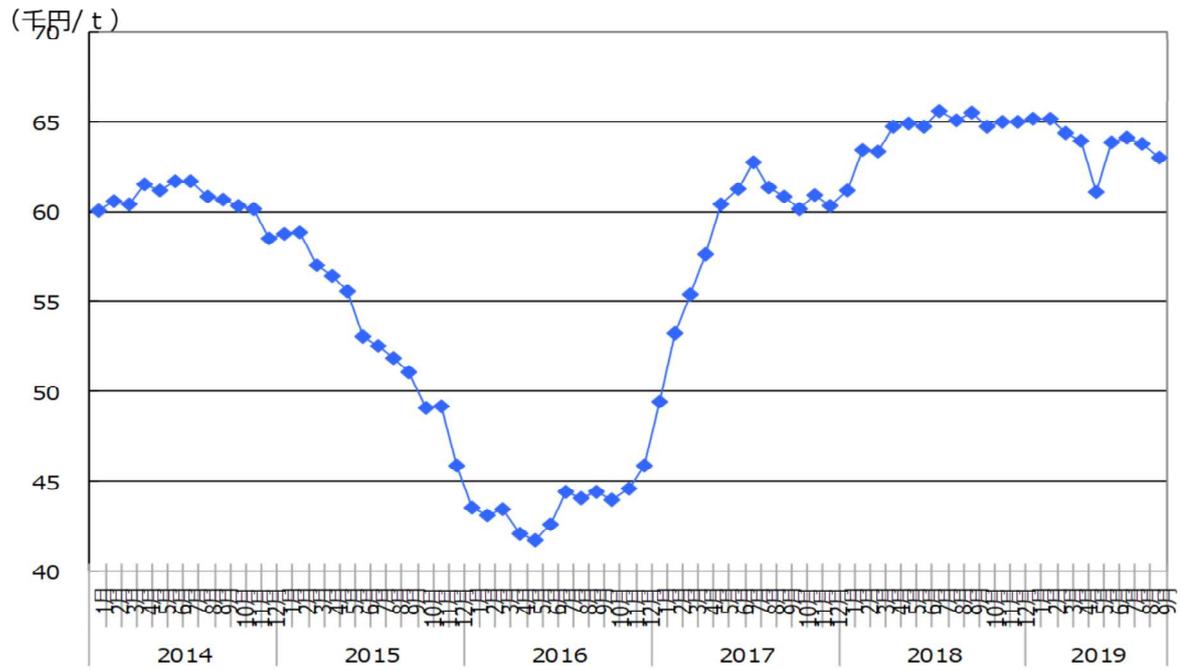


2019年度連結キャッシュフロー（見通し） （億円）

原資		使途	
当期利益	330	配当支払	400
減価償却費及び償却費	2,300	設備投資・投融資	4,100
有利子負債	2,300	運転収支他	430
会計基準変更によるリース債務増加		固定資産（使用権資産）等	
	1,100		1,100



JFE

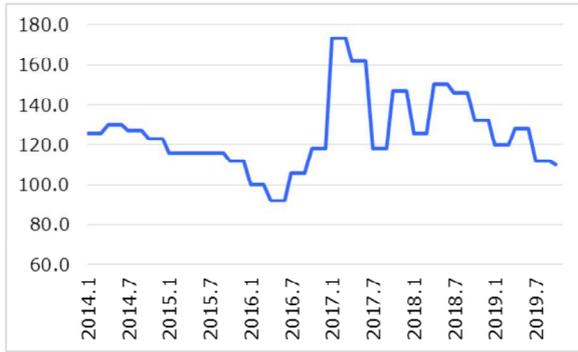


日本鉄鋼連盟データより作成 (韓国から輸入の熱延広幅帯鋼)

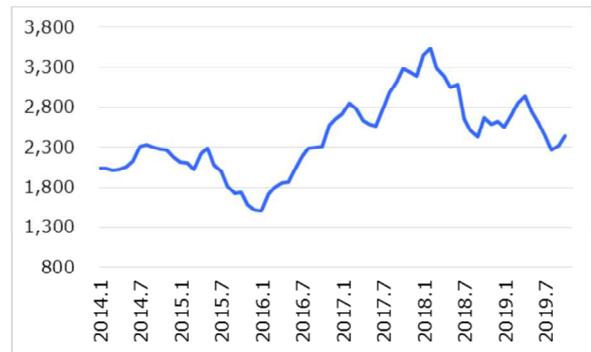


JFE

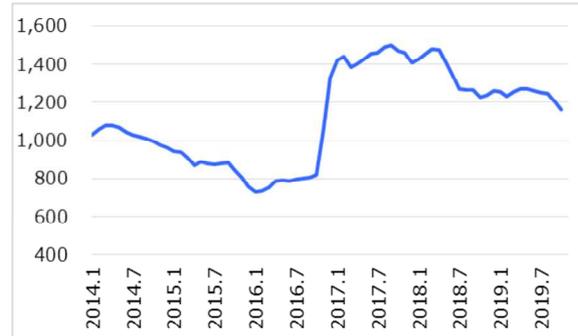
(¢/lb) フェロクロム



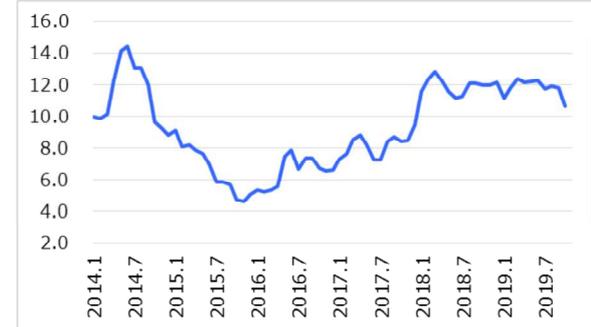
(US\$/t) 亜鉛



(US\$/t) フェロマンガ



(US\$/lb) モリブデン





原料

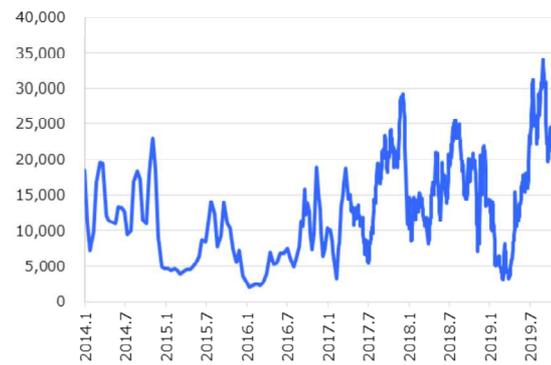
その他市況推移

JFE

(円/t) スクラップ市況



(\$/B) スポット備船市況



成約運賃指数

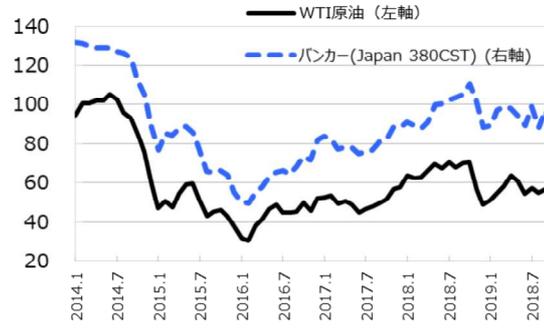
(公社) 全日本トラック協会データより作成



原油・バンカー市況

(WTI原油: \$/bbl)

(バンカー: \$/t)





JFE

(参考) 2018年度下期 ⇒ 2019年度上期
セグメント利益 ▲263億円内訳

JFEスチール

JFEスチール	(億円)		
	2018年度下期 実績※	2019年度上期 実績	増減 2018下 →2019上
セグメント利益	440	177	▲263

- コスト + 230
- 数量・構成 + 170
- 販価・原料 ▲ 310
- 棚卸資産評価差等 ▲ 250
- その他 ▲ 103



棚卸資産評価差	▲210 (+150→▲60)
原料キャリアオーバー影響	▲30 (+80→+50)
為替換算差	▲10 (▲20→▲30)

合計 ▲ 263

※当社は2018年度の期末決算よりIFRSを適用しております。そのため、2018年度下期の数値もIFRSに準拠し開示しておりますが、今後の四半期レビューの結果により変更する可能性があります。

54

19年度上期のセグメント利益は、18年度下期実績対比で▲263億円の177億円となった。内訳は、

◆コスト：+230億円

◆数量・構成：+170億円

18年度の操業トラブルの解消により粗鋼生産が回復。

・粗鋼生産+152万t (1,227⇒1,379万t)

・出荷+8万t (1,172⇒1,180)

◆販価・原料 (スプレッド)：▲310億円 (≒鋼材トン当たり：▲2,600円)

鉄鉱石価格の上昇と海外市況の低迷によりスプレッドが縮小。

◆棚卸資産評価差等：▲250億円

◆その他：▲103億円

・グループ会社収益の減少 等



JFE

(参考) 2019年度4-6月⇒7-9月

JFEスチール

セグメント利益 ▲113億円内訳

JFEスチール	2019年度 実績			増減 4-6月→ 7-9月
	4-6月 実績	7-9月 実績	上期 実績	
セグメント利益	145	32	177	▲113

■ コスト	▲ 30
■ 数量・構成	▲ 70
■ 販価・原料	▲ 70
■ 棚卸資産評価差等	+ 120
■ その他	▲ 63

棚卸資産評価差	+60 (▲60→±0)
原料キャリーオーバー影響 為替換算差	+30 (+10→+40)
	+30 (▲30→±0)

合計 ▲ 113

55

19年度7-9月セグメント利益は、4-6月実績比で▲113億円の32億円となった。内訳は、

◆ コスト：▲30億円

台風影響や小トラブルにより補修費が増加した。

◆ 数量・構成：▲70億円

鋼材需要の減少や海外市況の下落等に伴う生産調整により粗鋼生産が減少。

・粗鋼生産▲22万t (700⇒679万t)

・出荷+9万t (585→595万t)

販価・原料 (スプレッド)：▲70億円 (≒鋼材トン当たり：▲1,200円)

鉄鉱石価格の上昇と海外市況の下落によりスプレッドが悪化。

◆ 棚卸資産評価差等：+120億円

◆ その他：▲63億円

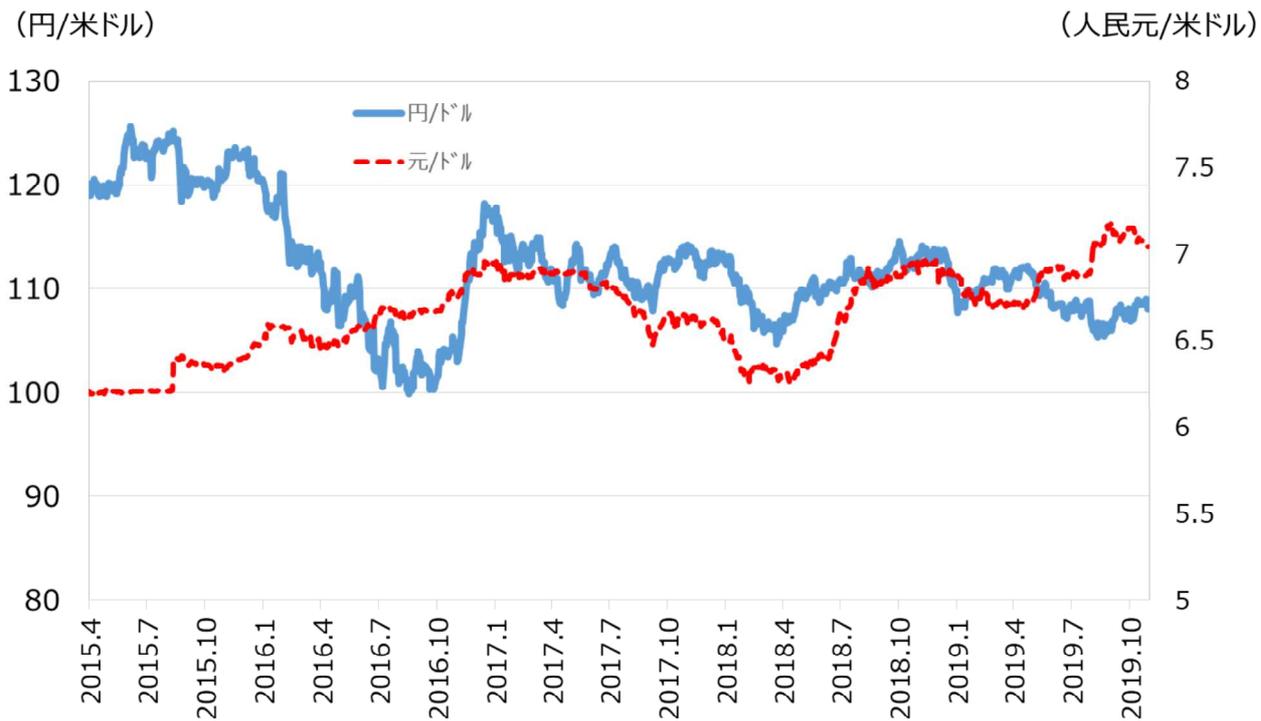
・受取配当金の季節差

・償却費増 等



為替レート推移（日本円/米ドル、人民元/米ドル）

JFE





JFE

Copyright © 2019 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい